

ねぎのネギアザミウマの被害が急増

～防除を徹底して被害を防止しましょう～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

9月1半旬に行ったねぎ（秋冬どり）の巡回調査（全県10地点）におけるネギアザミウマの被害株率は73.6%（平年48.4%）で高かった（図-1、2）。

また、被害地点率は100%（平年70.9%）で全地点で確認され、被害株率が100%の地点が全10地点中4地点となっている。

9月6日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、東北日本海側の気温はほぼ平年並と予報されている。

以上のことから、今後もネギアザミウマによる被害が増加すると懸念される。

2. 防除対策

1) 発生源となるほ場周辺及びほ場内の雑草除去に努める。

2) 多発しているほ場では、表土中の蛹からの羽化や葉肉内の卵のふ化により、薬剤による防除後も発生密度が低下しない場合があるため、7～10日間隔で2～3回薬剤を散布する。

また、薬剤を使用する際は、薬剤抵抗性の出現を回避するため、同一系統薬剤の連用を避け、茎葉散布する（表-1）。

3) 薬液には展着剤を必ず加用し、葉先から株元まで薬液が十分付着するように畝の両側から丁寧に散布する。

3. 資料

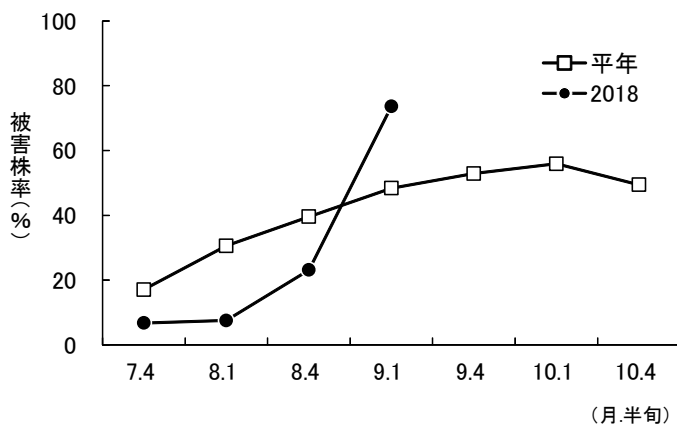


図-1 巡回調査における被害株率の推移（秋冬どり）



図-2 被害葉

表-1 ネギアザミウマの防除薬剤

系統	農薬名	希釈倍数 [散布液量]	使用時期	使用回数
a	ダイアジノン乳剤40	700～1,200倍 [100～300L/10a]	収穫21日前まで	2回以内
	マラソン乳剤	2,000～3,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	6回以内
c	アグロスリン乳剤	2,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	5回以内
	アディオオン乳剤	3,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	3回以内
d	リーフガード顆粒水和剤	1,500倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	2回以内
g	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000倍 [100～300L/10a]	収穫14日前まで	2回以内
	アドマイヤーフロアブル	2,000～4,000倍 [100～300L/10a]		
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	3回以内
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで	2回以内
	スタークル顆粒水溶剤			
	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで	4回以内
j	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで	3回以内
	ディアナSC	2,500～5,000倍 [100～300L/10a]	収穫前日まで	2回以内
1	ハチハチ乳剤	1,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	2回以内

a: 有機リン剤、c: 合成ピレスロイド剤、d: ネライストキシシン剤、g: ネオニコチノイド剤、j: マクロライド系剤、1: その他

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>